

科目コード A&F021205

科目名	財務諸表分析 Analysis of Financial Statements		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・金・3 限	秋・金・6 限	-	-
担当教員名	金 紅花	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施） ※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>本講義では、企業の経営実態を財務的側面から明らかにするために、企業が公表する財務諸表等の情報を、利用者の立場からどのように理解して分析を行うかを学ぶ。財務分析の基本的手法の体系的な理解を目的として、企業財務に関する身近な事例を取り上げて解説する。</p> <p><到達目標></p> <p>企業経営と財務（会計）の関係と財務諸表の見方を理解し、財務分析に関する基本的な手法を身につけることを目標とする。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>本講義の後半では、計 5 回の学生発表と討議を通じて、公表された有価証券報告書等の資料を基に企業分析を行う。</p>				
<p><講義計画></p> <p>講義計画は以下の通り。ただし講義の進行状況によっては、講義計画を若干変更する場合がある。</p> <p>1 回目：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：ガイダンス及び財務諸表の役割、入手方法について理解する。 <p>2 回目：貸借対照表の見方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：貸借対照表の構造から各主要項目について理解する。 <p>3 回目：損益計算書の見方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：損益計算書の構造から各主要項目について理解する。 <p>4 回目：キャッシュ・フロー計算書の見方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：キャッシュ・フロー計算書の構造から各主要項目について理解する。 <p>5 回目：分析の視点と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：分析の視点、分析の方法、分析の注意事項について理解する。 <p>6 回目：収益性の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：資本利益率、売上高利益率、資本回転率などに計算し分析する。 <p>7 回目：生産性の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：収益性と生産性の関係、付加価値の計算方法、労働生産性について計算し分析する。 <p>8 回目：安全性の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：貸借対照表に基づく指標、キャッシュ・フロー計算書に基づく動的分析を行う。 <p>9 回目：不確実性によるリスクの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：売上高の変動性、費用構造が利益変動に及ぼす影響、財務レバレッジに起因するリスクについて分析する。 <p>10 回目：成長性の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：成長性の指標、サステイナブル成長率、過去の成長指標について分析する。 <p>11 回目：小売業の財務諸表分析①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：小売業を営む上場企業を選び、その財務諸表を分析する。 				

12 回目：小売業の財務諸表分析②

・要点：小売業を営む上場企業を選び、その財務諸表を分析する。

13 回目：サービス業の財務諸表分析

・要点：サービス業を営む上場企業を選び、その財務諸表を分析する。

14 回目：製造業の財務諸表分析

・要点：製造業を営む上場企業を選び、その財務諸表を分析する。

15 回目：その他企業の財務諸表分析

・要点：小売業・サービス業・製造業以外の事業（運輸業、情報・通信業、不動産業、金融業など）を営む上場企業を選び、その財務諸表を分析する。

<講義の進め方>

1 回目から 10 回目までは教員による講義とし、11 回目以降は、受講者による発表、質疑応答、教員による補足説明という流れで進める。なお、受講者による発表は、受講者各自が企業を選び、その財務諸表を収益性や安全性や成長性などの観点から分析し、結果を発表するというものである。

<事前事後学習内容>

- ・自身の発表には十分な準備を行った上で臨む。
- ・他者の発表資料に事前に目を通し、疑問点等を明確にしておく。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示する。

<教科書及び教材>

各回の講義のエッセンスが広範な内容となるため、毎回講義資料を配布する。

<参考書>

- ・「財務諸表分析」（2024）、桜井久勝著、中央経済社
- ・「ポケット MBA 財務諸表分析ゼロからわかる読み方・活かし方」（2018）、グロービス著、PHP 研究所
- ・「経営分析事典」（2016）、日本経営分析学会編、税務経理協会
- ・「企業分析入門（第 2 版）」（2001）、クリシュナ・G・パレプ他著（斎藤静樹他訳）、東京大学出版会

<成績評価方法>

欠席 6 回以上は成績評価しない。

- ・評点（100 点）＝発表内容（50 点）＋ 議論への貢献度（50 点）

<課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法>

Teams 等にてフィードバックを行う。

<履修条件>

会計に関する基礎的知識があることが望ましい。

<ディプロマポリシーとの関連>

基礎知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

金・6 限（学内 e-mail にてアポイントを取る）

<その他>

講義計画は、状況により変更することがある。